

2021 学校経営計画

1. 学校教育目標

心豊かでたくましく、しっかり考え、自ら進んで行動する児童の育成

2. 目指す学校像 <学校スローガン>

行きたい 行かせたい 行ってみたい 符津小学校Ⅱ
～「ありがとう」の言葉がいっぱいあふれる学校！～

3. 目指す学校のつくり方（8つの要素）

行きたい学校マンドラチャートを指標に共通理解・共通実践を行う。

4. 目指す資質・能力 ◎は今年度の重点

	知	徳	体
知識・技能 ◎学びツールの習得	各教科固有の知識・技能 思考ツールの知識・技能 タブレットの知識・技能 言語活動の知識・技能 学び方手順(自己決定)・	学校生活のきまりの意義 学ぶことの意義理解 働くことの意義の理解 学び方手順(集団決定)	スポーツの学び方 (個人種目・集団種目) 基本的な生活習慣の理解
思考・判断・表現力等 ◎人と関わる力 ◎学びを生かす力 ◎社会をつくる力	課題設定力 論理的思考 創造的思考 批判的思考	課題設定力 人間関係・社会形成能力 自己管理能力	課題設定力 人間関係・社会形成能力 スポーツの楽しみ方 健康・安全を守る力
学びに向かう力・人間性等 ◎学び続ける意欲	探求的態度 協同的態度 自立的態度	協同的態度 自立的態度 キャリアプランニング能力	探求的態度 協同的態度 自立的態度

<学習の基盤となるツール>

① タブレット ② 言語（話す・書く・書く） ③ 考えるための技法（思考ツール）

5. 重点とする教育課題：資質・能力を身に付けるための新しい教育課程を創ること

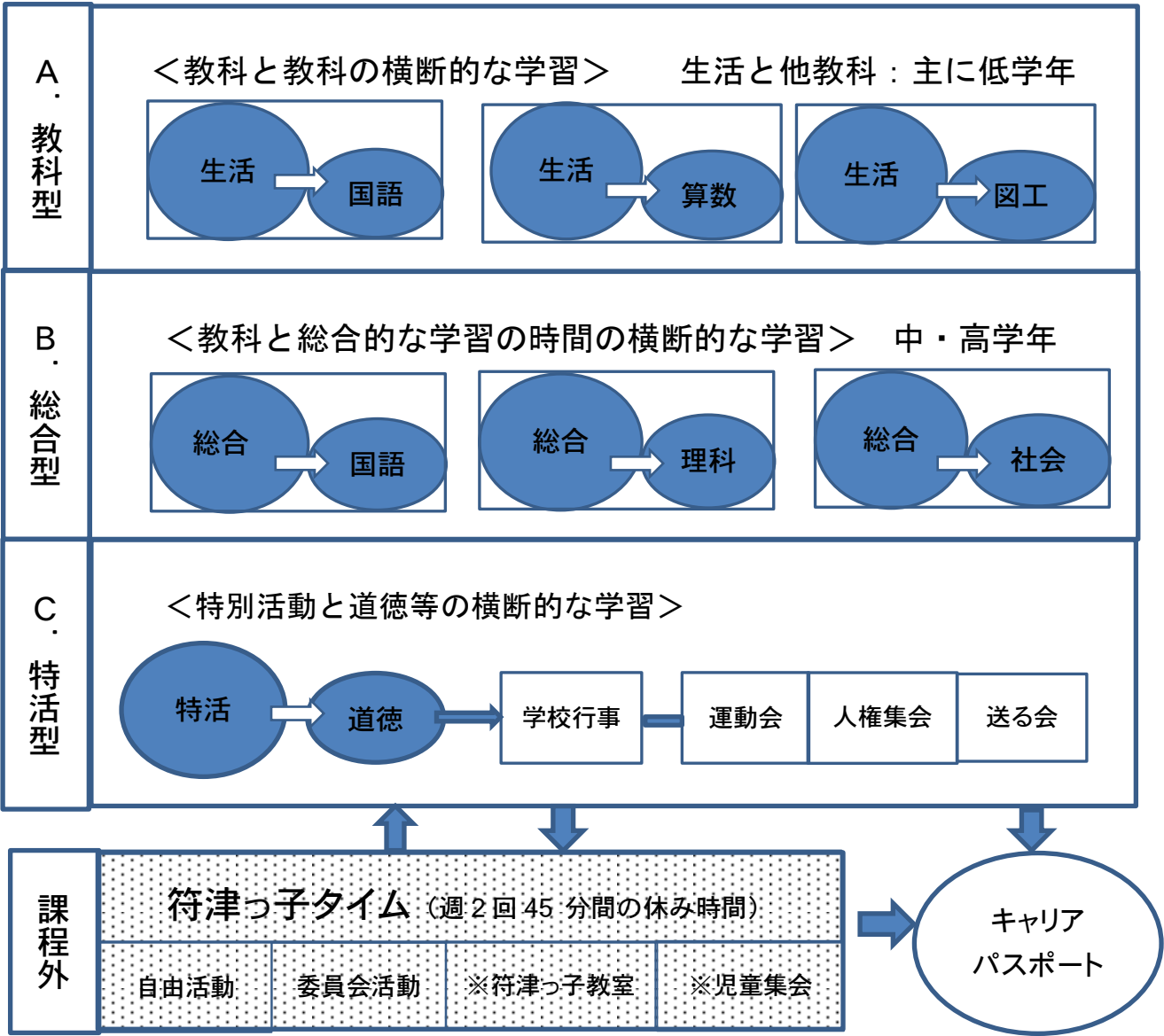
学びを生活に活かす新しい教育課程の創造②
～活動機会を増やし子どもの行動を変える取組～

【研究仮説】

- ・ 授業で学んだことを次の学習や学校生活に活かせるような課題解決の機会(探求プロセス)を教育課程の中に意図的に設定し、主体的に子どもたちが課題解決に向けて行動を起こすようになれば、様々な困難を乗り越えていくために必要な力となる基盤が身につき、3つの資質・能力の向上、更には、人間形成の面でもプラスにつながるであろう。

6. 教育課題解決の方法

方法1：学びを活かすための3つの教科横断的な学習（豊かな体験活動を含む）



方法2 授業デザインを工夫する【授業改善から授業をデザインするという発想の転換】

(1) 授業改善の視点

- ・「問い」…子どもたちから「問い」を生む働きかけを行うこと
- ・「見取り」…授業の導入・自力解決・評価の各場面で子どもの様子を観察すること
- ・「支援」…観察したことに対して言葉かけや授業展開変更等の手立てを工夫すること

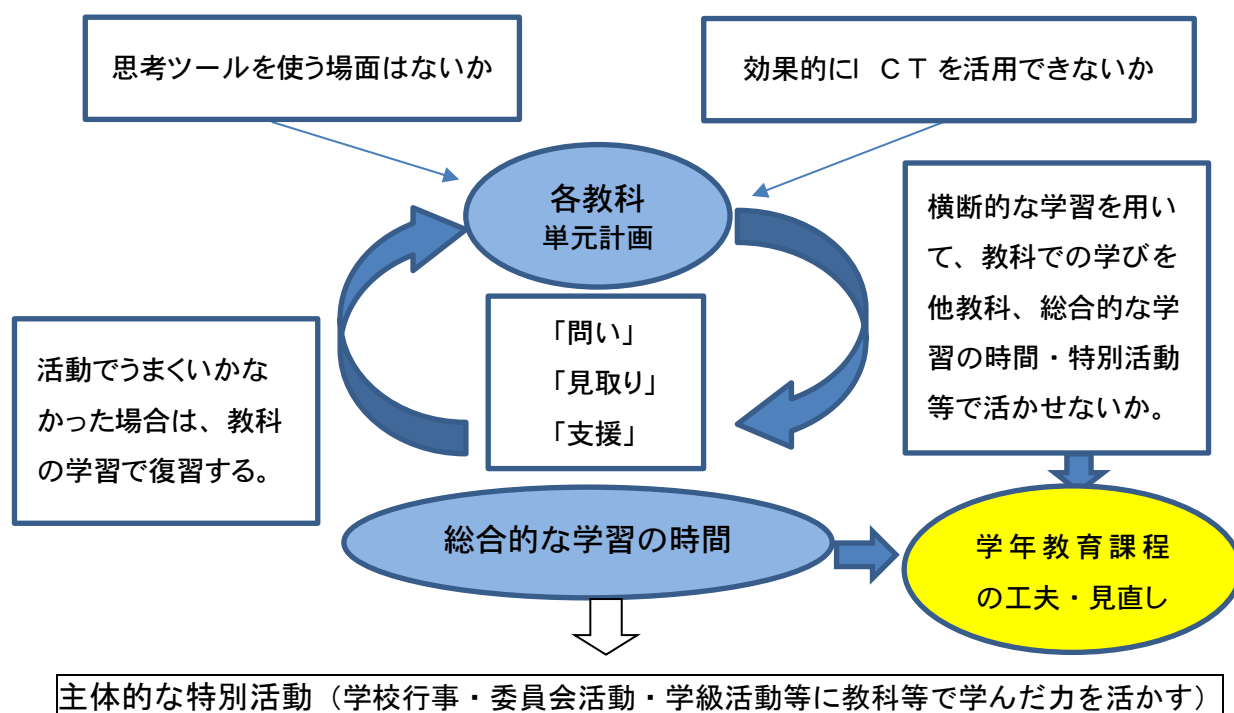
(2) 新たな学習ツール

思考ツール・ICT活用（タブレット）等の効果的な利用

(3) 教科横断的な計画

教科での学びを汎用できるように単元計画作成の段階から、学年全体計画との連携を考慮し、効果的に教科横断学習を取り入れられるようにする。

授業デザインのイメージ図



方法3：教師の子どもへの働きかけを工夫する

- (1) 「子どもの行動を変える手立て」の研究。
- (2) 「子どもの見取りと支援」…子どもの行動の変化を見取り、価値付け・支援する
- (3) 子どものよい行動を褒め、「通知表の行動の記録」でも評価する。

方法4：教職員の共通理解、全教職員による共通実践を徹底する

- (1) 子どもの行動を変える取組みを全部の学年・クラスで行う。
- (2) 全職員で全校児童を育てる（見取る・支援する）

7. 学校研究の取組み

(1) カリキュラム・マネジメントと関連させた授業デザインを工夫すること

○低学年は生活科、中・高学年は総合的な学習の時間の授業研究を行う。

視点1：子どもの「問い」を生む働きかけ、教師の「見取りと支援」を充実させる。

視点2：主体的な体験活動を設定し、教科での学びを活かす機会をつくる。

視点3：総合的な学習の全体計画と各学年の内容の見直し（SDGsと防災教育）

(2) 子どもが主体となる特別活動を工夫すること

視点1：委員会活動を充実（子ども中心の企画・運営）する。

視点2：新しい学校行事（異学年交流を生かした取組）を創る。

視点3：異学年での教え合い（タブレット・運動・遊び等）を増やす。

視点4：子どもの主体的な活動（あいさつ・掃除等の自発的活動）を推奨する。

視点5：道徳等とも関連させて、体験や学びを次に活かす（キャリア・パスポート）

(3) 学びの基礎を習得すること

視点1：言語能力：聴くことを中心とした取組を工夫する。

視点2：考える技法：思考ツールを授業や特別活動で活用する。

視点3・情報活用：校内活動でタブレットを積極的に活用し、使用機会を広げる。

8. 取組の評価

(1) 目標

- ① 子どものよい行動が現れ、学ぶ意欲が高まること。
- ② 子どもの主体性を引き出す教師の働きかけを学ぶこと。
- ③ 総合的な学習の時間・生活を中心とした教科横断的学習を実践すること。
- ④ 各学年の1年間の学習全体計画を実践に基づき作成すること。

(2) 成果指標

- ① 時間いっぱいまでそうじに取組む姿がみられる。
- ② お客さん・地域の方・お家の人・友だちにきちんとあいさつができる。
- ③ 友だちの話をしっかりと聞き、反応する姿がみられる。
- ④ よいと思ったことに自分から取組む姿が見られる。
- ⑤ 異学年や他校の友だちと仲良く交流する姿が見られる。
- ⑥ 自分の身は、自分で守ろうとする姿が見られる。（コロナ・事故・防災等）
- ⑦ 自分で決めたことを最後までやり抜く姿が見られる。
- ⑧ 自己肯定感が高まる。（やればできるという自信が出てくる）

子ども

教師

- ① 子どもの見取りと支援についての理解が深まる。
- ② 子どもの問いを生むための教師の働きかけについての理解が深まる。
- ③ 授業をデザインするという意味や方法についての理解が深まる。
- ④ 子どもの意欲・自己肯定感を高める方法についての理解が深まる。
- ⑤ 他教科での学びを生かした主体的な総合的な学習・生活科を実践する。
- ⑥ 効果的な教科横断的な学習を取り入れた年間の学習計画が作成する。